

新副校長×旧副校長

昨年度まで三小で副校長を勤めていた伊東先生と新たに今年度副校長に着任された岸田先生が副校長としての熱い想いを語ってくれました。

—教員を目指したきっかけ、志した理由—

【伊】もともと学校が好きで、高3の時、教員をしている先輩に「教員っていいよ、君だったらできるから！」と言われ、おだてに乗ってしまった。大学は教員養成課程ではなく文学部出身です。大学4年生で教育実習に行ったんですけど、その時に「授業っておもしろい、もっといろんなことを考えたり勉強しながらやっていかなければならないものだ」と教えてもらった。それで、「よっしゃ！もっと良い授業ができるようになりたい、部活動で子どもたちと一緒に頑張っていきたい」と。だから誰かをこうしていききたいというより、自分自身で良い先生を目指していききたいと思ってました。

【岸】僕の場合、小中高とすべて先生に恵まれて温かく育ててもらったので、人と関わる仕事がしたいと思っていました。教員になろうという思いは全くなかったのですが、将来を考えたとき「人に関わる仕事、うん、先生も良いな」と思って。最終的になろうと決めたのは教育実習なんです。教育実習で目の前にいる教員の姿に感銘を受けました。思春期の子どもたちは自分でどうしたらいいかわからない、とまさに悩んでいるんですよ。そこに全力で関わる教員の姿を見て「いや～も～自分は子どもが好きだし、人に関わっていききたいな」と思っているし、子どもと向き合っていて一緒に成長したい！こんなに素晴らしい職はないだろう！と、教員になることを決意しました。伊東先生同様、小学校の教員養成課程出身ではないので、振出しは高校の生物なんですよ。大学を卒業して、高校と中学の教員をしながら、小学校の教員免許を取得しました。

【伊】共通することが多いですね。大変だっ

たのでは？

【岸】振り返ればよくやったと思いますが、その苦勞にかえられない子どもの魅力、教員の仕事の魅力がありますよね。だからこそ頑張れたのかな。

【伊】当時、教員採用選考は入口の狭き門だったので、みんな苦勞しながら目指してた。僕もね、最初は高校の講師だったの！その後採用されて中学校で26年間。お互い、小学校、中学校、高校を経験してますね。

【岸】教科担任制の中高は似た空気感があるんです。一方で小学校は職員室に一体感というか、全員で作り上げる感がありますね。何より小学生は、人懐っこくて、本当に可愛いですよ。

【伊】校外で会うと「あー副校長先生！」って嬉しそうに手を振ってくれる。「僕、スターになったんじゃない？」って思っちゃうくらい(笑)反対に中学生だと顔を背けられる感じ(笑)小学校と中学校では、子どもの存在が先生にとって違うし、子どもにとっても先生の存在が違います。小学生は先生を信頼している。特に低学年は、理由がわからなくても先生が「ダメ」や「気をつけなさい」と言ったら、素直に従う。中学生にとって先生は「自分たちがやりたいことを止める人」、「やりたくないことをやらせる人」というマイナスイメージな存在。それでも内心では、「自分の求める先生」を強く求めている。内面で頼り、表面的には拒否している。思春期の発達段階ですよ。

—副校長の仕事—

【岸】伊東先生は副校長として初めていらした小学校、どんな違いを感じてますか。

【伊】最初は小中の違いに加えて、副校長の仕事も分かってなかったのが、職員室の真ん

狛江の先生はもっと自信をもっていいよね (伊東)



いとうじゅん
伊東 純 先生
旧・狛江第三小学校副校長
(現・緑野小学校副校長)
☆出身地 東京都八王子市
☆初任地 町田市(町田市立業師中学校)
☆趣味 車やオートバイに乗ること
☆座右の銘/好きな言葉 何事も 止めず 休まず あきらめず
(剣道範士 千葉 仁 先生)



きしだかずき
岸田 和之 先生
現・狛江第三小学校副校長
(平成31年3月まで狛江第一小学校教員)
☆出身地 兵庫県
☆初任地 神奈川県内の高等学校生物教員
☆趣味 マラソン
☆座右の銘/好きな言葉 継続は力なり

先生たちに向かってありがとう、そんな気持ちになります (岸田)

中にある副校長席に座って下を見ながら「誰か近づいてくるな～来ないで来ないで」って(笑)狛江の先生たちは力のある人が多いから子どもたちの学習指導面で特に心配はなかったのが、それは楽でした。

4月から副校長になった岸田さんは、まさにこの感覚を味わっていると思うけどどうですか？

【岸】学級担任のときと仕事内容が全く違うので、見える世界が変わってみれば、自分が感じるものが今までとは全く違うな、と。やっぱり緊張感が毎日ありますよね。

【伊】次に何が起こるか分からないという心構えがありますよね。だから今日一日こう過ごそうと思っても、はっと気づくと全然違う一日を過ごしてた、みたいな。

【岸】一日に3回、朝・お昼・子どもたちを帰したあと、副校長席に、先生が報告や相談にいっぱい来ます。この時間すごく大事なんですよ。ここでハウレンソウ(報告・連絡・相談)ができることによって、学校がうまく回ります。先生がいる時でないとクラスの様子や先生の想いを直接聞くことができないので、先生とのコミュニケーション、これはもう第一優先です。

【伊】学校の先生って真面目な人が多い。だから、上手くいってることより、上手くいってないことの方が気になっちゃう。これって先生の特性だと思うし、逆にそれがなきゃいけないのかもしれない。だから、先生たちに対して「上手くいってますよ、その延長線上で上手くいれないことがあったとしても、自信をもって今のままやってほしい」といつも思ってます。自分のやっていることに自信をもちながら、向上心をもって頑張ってもらいたいと。

【岸】良いところをどう引き出してどう繋げていくか、副校長にかかっているのかなと思います。まだまだ僕は経験も浅いので、これから勉強だと思っています。

【伊】先生たちにとっての良い環境を整えていくことが一番ですね。

【岸】学級と同じですよ。学級は「今日も元気に子どもたち来てくれるかな」、それが職員室は「今日も先生たち元気に来てくれるかな、今日はどんな顔して来るのか

な」と。先生が笑顔で子どもたちに向き合っている姿を見ると、嬉しくなりますよね。そういう時は先生たちに向かってありがとう、そんな気持ちになります。三小の職員室ってすごく温かいんです。これは僕が創り出したのではなく、前任の伊東先生を中心に、職員室づくりがあったからだと思います。荒川校長が「チームKoma3」とよくおっしゃいますが、縁あって同じ職員室にいる先生の良さを結集して、子どものために全力で取り組む職場にするために、副校長として、繋ぎ役になりたいです。

—狛江の子どもたちについて—

【岸】例えば自然な形で「こんにちは」とか、「～先生！」というコミュニケーションができる、狛江の子ってすごいなと思います。休み時間は校庭に出て汗だくになって遊ぶ、気持ちを切り替えて、授業は集中して受ける、そこは狛江の子の共通点ですね。

【伊】狛江全体に一体感がありますよね。地域の方、教職員、行政が一体となって創り出している狛江流の教育みたいなものが本当に根付いているなと思います。

だから、狛江の先生はもっと自信をもっていいよね。

—三小の魅力—

【伊】三小は、地域コミュニティーの中心のような場になってますね。

【岸】運動会で熱中症対策としてテントを立てることになった時、町会の方がすぐに「貸しますよ」と。設営は、ってなると今度はおやじの会やPTAの方がさっと動いてくださる。そんな結束力というか、連携というか、地域の力をすごく感じますね。

【伊】僕も中学校から三小に来たばかりの時、小学校のお父さんお母さんたちの力ってすごいなあと感動しました。

—伊東先生から岸田先生にエール—

【伊】三小は地域も含めて子どもたちを大切にしていって「子どもファースト」が受け継がれているので、狛江をよく知っている・若くて・明るくて・優しくして・優秀な岸田先生がその伝統を継承していく、一番ふさわしい先生です。

【岸】すごいプレッシャーだなあ(笑)

